

ウトナイ湖通信



No.254

2025 年7月号



動植物が鮮やかに色づく7月のウトナイ湖。ピンク色の花のホザキシモツケには、フタスジチョウの姿がよく見られます。森林ではキビタキやクロツグミ、草原ではコヨシキリなど野鳥のさえずりも聞こえてきます。

ウトナイ湖は、周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。

7月のイベント情報

お気軽ガイドウォーク in ウトナイ湖

7月13日(日)10:30~11:30

レンジャーや当センターのボランティアが40分程、屋外でウトナイ湖の自然を案内します。※荒天時は館内ガイドウォークに変更します。

- 定員:10名程度 ●対象:どなたでも(小学生以下保護者同伴)
- 申込:不要。直接当センターへ

夏休み子どもスペシャル

～野生動物を守る！環境省と獣医師のお仕事体験～

7月26日(土)10:00~12:00

野生動物を守るために当センターを運営している環境省、苫小牧市がどのような仕事をしているか、体験してみませんか。1年に1度のスペシャルイベントです。夏休みの自由研究としてもいかがでしょうか。

- 定員:12名 ●対象:小学生3~6年生
- 申込:事前申込制。7/5(土)~7/23(水)まで電話で当センターへ。

救護室バックヤードツアー

7月19日(土)11:00~11:40

普段一般公開をしていない傷病救護のバックヤードを当センターの獣医師がご案内します。

- 定員:12名 ●対象:どなたでも(小学生以下保護者同伴)
- 申込:事前申込制。7/2(水)~7/18(金)まで電話で当センターへ。

レンジャーと一緒に夏の生きものの探し

① 8月2日(土)10:30~12:00

② 8月3日(日)10:30~12:00

ウトナイ湖オリジナルの夏の生きものの図鑑を持って、レンジャーと一緒に生きものを探しに行きましょう。どんな生きものを見つけられるでしょうか。

- 定員:先着20名 ●対象:どなたでも(小学生以下保護者同伴)
- 申込:事前申込制。7/1(火)~それぞれ前日まで電話で当センターへ。



◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆ TEL.0144-58-2231

〒059-1365 苫小牧市植苗 156-26 / 道の駅となり

開館時間:午前9時~午後5時 / 入館無料

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター

検索

休館日:毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

ラムートくん



～ウトナイ湖～

・国指定鳥獣保護区特別保護地区
・ラムサール条約湿地
・東アジア・オーストラリア地域
・フライングウェイ・パートナーシップ

傷病鳥獣ルームから

当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺(苫小牧市行政区域内)において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をご紹介します。



マガモ

搬入直後の様子



くちばしから
釣り糸が出ている

釣り針がはっきりと
写っている



レントゲン写真

原因：釣り針・釣り糸

5月29日



5月30日

リリース

釣り糸がくちばしから出ており、さらにネコに襲われたというマガモが、当センターに搬入される。

初診にて口腔内を確認すると、のどの奥深くに釣り針が刺さっているのを確認。

レントゲン検査で、その位置を確認。

その後、無事に釣り針を摘出した。

また、ネコに襲われた際の外傷についても消毒等の処置を行ない、安静とした。

翌日リリースとなる。

マガモ (カモ目 カモ科)

全長 59 cm。今回保護された個体は成鳥のオスで、光沢のある緑色の頭部と黄色いくちばしが特徴的です。成鳥のメスは、全体的に褐色で黒褐色の斑が散在し、くちばしはオレンジ色ですが中央が黒くなっています。北海道に生息するカモ類の中で最も身近に生息する種で、河川や湖沼、湿地などで一年中観察できます。

トピックス



春のウトナイ湖で生きもの探し

オリジナル図鑑を使い、ウトナイ湖で見られる春ならではの生きもの探しを行ないました。スタッフが図鑑の生きもののいる場所のヒントを出すと、参加者は自分で生きものを探し出し、見分けることができていました。参加者からは「また参加したい」といった声が聞かれました。



カヌーに乗ってウトナイ湖ゴミ拾い

(公財)日本野鳥の会が Gateway Tours の協力のもと、普段入ることのできないウトナイ湖に、特別な許可を得て、カヌーでのゴミ拾いを行ないました。風に飛ばされヨシに引っかかったプラスチックゴミ、大型の容器など 45L ゴミ袋で 15 袋ほどのゴミが回収されました。



ボランティアコーナー

5/25 に開催した「春の生きもの探し」にサポートとして参加された いう さんにインタビューしました。

「春の生きもの探し」に参加しようと思った理由はなんですか？

春の野鳥や植物、昆虫の特徴についてレンジャーさんやボランティアガイドさんからお話を伺うのが楽しみでした。また、ウトナイ湖の魅力を多く知ってもらいイベントのお手伝いがしたいと思いました。

参加してみた感想を教えてください。

当日は雨のため、屋外での自然観察時間を短縮して館内で「生きもの探し」や生き物の説明等の時間をゆったり取ることができました。参加のお子さんたちも大人の方々も楽しむことができたと思います。

印象に残ったことがあれば教えてください。

自然観察に出る前に外靴消毒についてのお願いがレンジャーさんからあり、参加のお子さんたちもしっかりと長靴を消毒液箱に浸していたので感心しました。野生鳥獣保護のために鳥インフルエンザ等の感染予防対策は特に重要と感じました。



受付の準備をする
いう さん

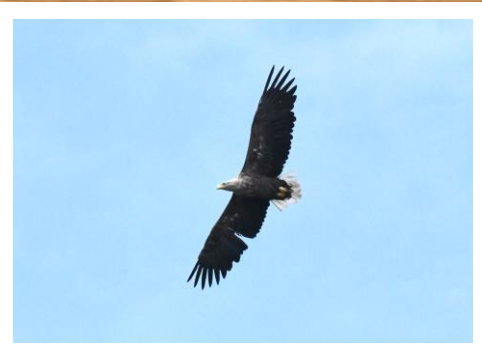
ウトナイ湖 お楽しみコーナー 【ウトナイ湖・クイズ】

ウトナイ湖では、翼の羽の一部がないオジロワシがいます。オジロワシの羽は一度抜けると生え変わることはないのでしょうか。

次の A～Cの中から、選んでみてください。

- A. 生え変わらない
- B. 生え変わる
- C. わかっていない

※ 答えは最後のページにあります。



公式 SNS には、ほかにもたくさん情報を載せています！



Instagram



Facebook



X



レンジャーのおすすめ自然情報



【コゲラ】

全長15cm。「ギーギー」と鳴く。日本に生息するキツツキの仲間では最も小さい。保護センター前にもたまにやってくる。



【ビ"ンズイ】

全長16cm。「チチロツ
イツイツイチヨペチ
ピー」と複雑な鳴き声。
林の中で見られること
がある。



【ヤマグワ】

野鳥の貴重な食物の 1 つ。ハスカップの小径などで見ることができる。メジロやヒヨドリなどが食べにくる。



【エゾミソハギ】

名前の「エゾ」は、北海道に多く見られることから。湿地を好むため、木道脇や湖岸沿いにみられる。

ウトナイ湖にも夏の到来です！

ホザキシモツケやトモエソウなどの花々が
自然観察路の周りを鮮やかに彩ります。

春に到着した夏鳥たちは、さえずる回数
が減り、声があまり聞こえなくなりますが、
ひっそりと子育てをしています。

活動が活発になるスズメバチなどに気をつけながら、色々探してみてください。



ウトナイ湖で自然観察を楽しもう♪

最新自然情報や、自然観察路マップはこちらから



Instagram



Facebook



X

自然観察路ガイドマップ【夏】

